

派遣留学生帰国報告書

* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2020/11/29
所属学部・ 研究科・学府	融合理工学府
所属学科・専攻	創成工学専攻デザインコース

1. 留学先について

留学先大学名	The Glasgow School of Art										
留学先所属学部等	The Innovation School										
留学期間	出発日	2019/9/4	入学日	2019/9/11	修了日	2020/2/29	帰国日	2020/3/14			
住居	大学(紹介)の寮・アパート		民間アパート		<input type="radio"/>	その他()					
	通学時間	25分						On campus			
	通学方法	バスもしくは徒歩									
	居室スペース	個室	<input type="radio"/>	() 人部屋		その他()					
	共有スペース	完全個室		キッチン	<input type="radio"/>	トイレ	<input type="radio"/>	バス	<input type="radio"/>	リビング	
食事	自炊	40 %	学食	35 %	外食	25 %	その他	() %			
保険	海外旅行保険(名称)	たびほ									
	派遣先大学指定の保険(名称)							<input type="checkbox"/> 強制加入			
	その他										
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)										
	羽田 ⇄		ロンドン(飛行機)			⇄ グラスゴー(バス)					

2. 留学にかかった費用について

総費用	1,150,000 円					
出どころ						
自費	貯金	円	アルバイト	円	その他	円
援助	両親	600,000 円	家族・親戚	円	その他	円
奨学金	JASSO	円	その他名称(トビタテ)		550,000 円	
その他	その他()					円

2-1. 財政管理の方法

渡航時	現金	70,000 円	その他(電子マネー(VISAカード))	100,000 円
留学中	海外送金	キャッシング	その他(電子マネー(VISAカード))	

2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	交換留学のため払っていません
住居にかかった費用	全額、電子マネーで銀行振り込み
その他	

2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			180,000	円
海外旅行保険			90,000	円
OSSMA			20,000	円
査証・在留許可証			0	円
住居	ポンド	3,000	420,000	円
食費	ポンド	1,200	170,000	円
通学に要する交通費	ポンド	150	20,000	円
教科書、教材費			0	円
その他大学に支払った経費			0	円
光熱費			住居費に含まれる	円
その他(旅行費)			250,000	円
その他()				円
その他()				円
その他()				円

3. 学業面

履修科目名	種類 ^{ex.正規、聴講}	単位数	単位互換認定申請の有無		
1 WORKING TOWARDS THE PREFERABLE	正規	10ECTS	<input type="radio"/>	有	無
2 DESIGN INNOVATION - PARALLEL PROJECT	正規	20ECTS	<input type="radio"/>	有	無
3				有	無
4				有	無
5				有	無
6				有	無
7				有	無
8				有	無
9				有	無
10				有	無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

授業の選択肢はなく、Innovation Schoolにいる学生全員が同じ授業を受けます。そのため授業登録もありません。

3-2. 授業内容、方法に関して

グループワークで平日5日間の朝から夕方まで作業を行い、好きなタイミングで先生に質問したりフィードバックをもらうことができます。2-4週間で1つのプロジェクトを終え、最後にプレゼンテーションをします。またグループワークとはと並行して、各個人が参考書(論文等)と比較しながらグループワークの内容を報告書を作成します。

3-3. 語学力について

専門分野について簡単なディスカッションができるレベルで留学しました。はじめはネイティブの先生方のレクチャーやヨーロッパ系の学生とのワークについていくのが大変でしたが、後半はスムーズに先生やクラスメイトと会話ができるようになりました。

3-4. 図書館など学内施設について

図書館はiMacが30台以上並んでおり、土日朝から夜まで静かに集中できる空間だったので個人作業によく使用しました。千葉大学附属図書館に比べると小さな図書館ですが、綺麗に整備されており、美術に関する本が多く揃っていました。学食は開いている時間帯は平日の11:00-14:00くらいで短いのですが、安く満腹になる量を食えることができ、サラダが無料だったのでほぼ毎日ランチに利用しました。

3-5. その他

--

4. 生活面

4-1. 住居について

キッチン、バスルーム、リビングが共有でしたがルームメイトが社会人で朝から深夜まで働いていたためほとんど会うことがなく、一人で占有しているような状態で過ごしていました。共有用のリビングが広すぎて一人では落ち着かなかつたため、家ではほとんどの時間を個室で過ごしていました。照明は日本に比べて全体的に暗く暖色寄り、夜は静かで落ち着く雰囲気でした。共有空間にはなるべく自分のものを置かず、冷蔵庫も一定のスペースだけに自分のものを入れるようにしたり、自分の持ち物の管理に気をつけていました。

4-2. 食生活について

昼は学食を使い、夕食は学校帰りにスーパーで買っていました。外食は必ず一食1500円以上かかり高いため週に1回を目安にしていました。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

出国前に自分のスマートフォンを携帯会社でSIMフリーにもらい、到着した空港でプリペイドSIMカードを購入しその場でSIMカードを交換してもらいました。1ヶ月ごとに電話でVISAカードでチャージをすることで携帯電話を使用していました。住居のインターネットはもともと整備されており、特に問題なく自由に使用できていました。

4-4. 服装について

冬は常に10度以下だったため、最も暖かく厚いタイプのヒートテックを上下に着ていました。

4-5. 健康管理について

私はあまり健康に気をつかわずに生活していたため、留学後半は常に風邪をひいているような状態で体調の悪いまま過ごしていました。運動したり、家でも野菜の多い食事をおけばよかったと思います。

4-6. 保険、OSSMAの利用について

利用しませんでした。

4-7. 課外活動について

平日の放課後は図書館にこもり、個人ワークを必死に進めていました。平日は5日間朝から夕方までグループワークを行い夕方以降は個人ワークに集中するという生活でしたので、土日は基本的に休息の時間として家でゆっくり過ごしたり散歩をしていました。土日はたまにクラスメイトと1日旅行に行ったりディナーを楽しんだりすることもありました。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

学外のコミュニティには特に参加していませんでした。

4-9. 日本から持参してよかったもの

爪切り, ヒートテック, 1年分のコンタクトレンズ, 気晴らし用の日本語の読書用の本, 風邪薬

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

工作道具や文房具

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

日本の「お客様は神様」精神はないので、現地でのサービス業のマナーがはじめはかなり粗暴に感じましたが、慣れました。また生活習慣としては学校やお店は比較的早く閉まり、街の大きな通りも21:00を超えるとかなり人通りが少なくなり静かです。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行

デンマーク・コペンハーゲン&フィンランド・ロヴァニエミ, ヘルシンキ(観光)2019年12月(9日間), 約10万円
イギリス・ロンドン(観光)2019年12月(8日間), 約10万円
オーストリア・ウィーン&スイス・クール(観光)2020年2月(7日間), 約5万円

その他 * 気分転換やストレス発散法など。

土日の日中は公園や街中、ショッピングモールなどを散歩していました。街の中心部は家から学校までの通学路で、家から15分くらい歩くとすぐに人の集まるにぎやかな街の中心に出るのでほどよい距離感でした。

5. その他

5-1. 留学先大学について

グラスゴー芸術大学のイノベーションスクールはクラスメイトが非常に国際的で、イギリス出身の学生はクラスに数人しかいませんでした。また日本のほとんどの大学院のように学部から進学する場所ではなく、一度社会で働いたことのある人たちがサービスデザインの基本を修士号として1年で習得する、専門学校のような場所です。いろいろな国籍の、様々なバックグラウンドを持つ人たちと一緒にグループワークでディスカッションでき、貴重な経験を積むことのできる大学です。街も小さく、1つの教室内でクラスメイトと多くの時間を過ごすので、慣れていくと街もクラスもアットホームで親密な雰囲気を感じることができます。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

日常会話の語学力が最も重要です。その有無で留学の学び・楽しさが大きく変わると思います。日常的にクラスメイトと会話ができると、クラスメイトに勉強のアドバイスをもらったり、逆にコメントしたり、ディスカッションしたり、授業時間外に一緒に遊んだり、海外の貴重な経験をさらに充実したものにできます。授業を理解したり参考書を読むような語学力ももちろん大事ですが、人間関係を作るコミュニケーション力を特に意識しておくことが大事だと思います。

5-3. 留学を終えて

日本語の通じない環境で根拠のない不安を常に感じているような中で、自分の身の回りのことや行動計画を管理する経験ができました。トラブルも多かったので「なんとかなる」精神がついたと思います。